

2021/12/6

商品企画部
中島 三養子

マーケット・フォーカス

商品：原油

OPECプラスは増産維持、下げの勢いは一服か

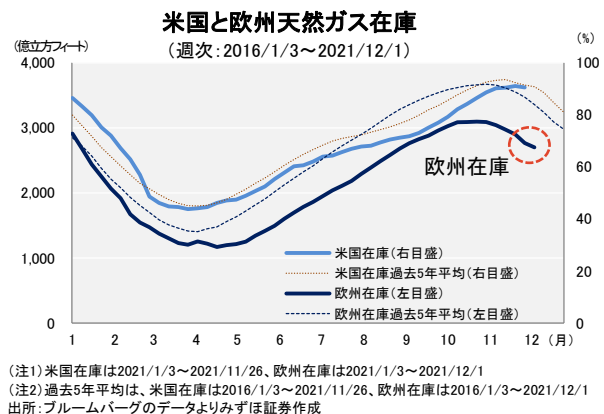
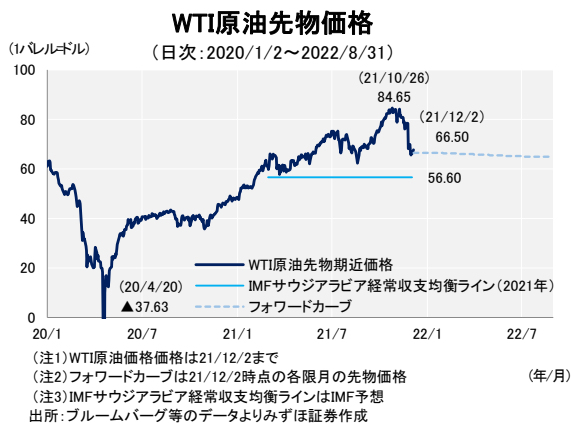
- OPEC プラスは予想外の増産維持、弱気材料が出そう
- 新たな変異株(オミクロン株)の影響を見極めつつ、原油価格は米国の圧力から上値抑制に
- WTI 原油先物価格、2022 年 3 月までの想定レンジは 1 バレル=60~85 ドル

OPECプラスは増産維持、弱気材料出そう

足元のWTI原油先物価格は1バレル=65ドル前後と、10月高値から約2割安に。新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の感染拡大懸念が需要の緩みにつながるの見方や、米連邦準備理事会(FRB)による金融資産買い入れの早期終了観測等が相次いだ。さらに12/2の石油輸出国機構(OPEC)と非加盟国で構成する「OPECプラス」の閣僚級会合では2022年1月も現行の日量40万バレルの増産維持の決定と、市場予想に反する結果に。OPECプラスはいつでも決定を見直す可能性に言及したものの、結果的に米国からの増産要請に歩み寄る姿勢をみせたよう。

新たな変異株の影響を見極めつつ、米国圧力から上値抑制に

原油市場は弱気材料出尽くし感もあり、いったん下げの勢いは一服か。世界的な脱炭素化を受けた米石油大手の生産縮小により、原油の供給制約は続く見通し。また、エネルギー市場は全体的に在庫不足が鮮明に。欧州のガス在庫水準は過去5年平均を大きく下回る。ガスは冬場の需要期に差し掛かり、仮に寒波等の影響が広がれば暖房需要拡大から原油の需要が高まろう。なお、サウジアラビアの国営石油会社は、22年1月のアジア・米国向け原油価格を引き上げた。新たな変異株の感染拡大懸念のなかでも需要の強さが継続すると見込んでいるようだ。今後は新たな変異株に有効なワクチンの開発や治療薬の効果等が明らかになれば、経済活動の再開継続から原油価格は反発に向かおう。一方、高値局面ではインフレ懸念の高まりから米国産原油の禁輸等、米バイデン政権の圧力が復調し、上値抑制となろう。以上のことから22年3月までの想定レンジを1バレル=60~85ドルに見直す。



この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資に関する最終決定はご自身の判断でお願いいたします。また、本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成したものです。その正確性、完全性を保証/したものではありません。本資料に示された意見や予測は、資料作成時点での当社の見通しであり今後予告なしに当社の判断で随時変更することがあります。最終ページに金融商品取引法に係る重要事項を掲載していますのでご覧ください。

金融商品取引法に係る重要事項

- 当社取り扱いの商品等(外貨建商品等も含む)にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料(投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料および信託報酬等の諸費用等)をご負担いただきます。債券を当社との相対取引によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- 各商品等には価格の変動や発行者の信用状況の悪化等により損失が生じるおそれがあります。
- なお、債券の利金・償還金の支払いについて、発行者の信用状況等によっては、支払いの遅滞・不履行が生じるおそれがあります。
- 外貨建商品等の売買等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。また、売却時等の為替相場の状況によっては為替差損が生じ、損失を被るおそれがあります。
- 商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

商号等：みずほ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

広告審査番号：MG5690-211206-11